

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科 アジア・オセアニア地域
学年(出発時)	3年生
大学名	プトラマレーシア大学(Universiti Putra Malaysia UPM)
国	マレーシア
留学期間	2025.03 - 2025. 08
派遣先での身分	留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	図書館で自習
13:00	昼食
14:00	
15:00	授業
16:00	授業
17:00	
18:00	
19:00	部活
20:00	夕食
21:00	友人と過ごす
22:00	帰宅
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
KOC3301 Introduction to Corporate Communication	3時間/週一回	3	英語	レポート、中間試験、期末試験
KOH3433 Interpersonal Communication Skills	3時間/週一回	3	英語	レポート、中間試験、発表(ビデオ撮影)、期末試験
BBL3227 Images Of The City In Literature	3時間/週一回	3	英語	レポート、中間試験、展示会発表、期末試験
KOC3402 Basic Communication Strategies	3時間/週一回	3	英語	レポート、中間試験、発表、期末試験

大学のサポート	
チューターの有無	有(Buddies) : ラマダン期間とVISAの問題で申請ができなかった
チューターのサポート内容	
語学コースの有無	無
コース名、料金、期間等	

生活	
住居のタイプ	シェアハウス(マンション)
住居の名前	Meta City
部屋タイプ	3LDK
ルームメイト(国籍)	中国人、マレー人
室内設備	ベッド、クロゼット、テーブル、椅子、エアコン
共用施設	トイレ、キッチン
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	MRT(電車)→ Bus(バス)に乗り換え: 約40分 / Grab(タクシー): 約20分
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	留学
Visa申請先	EMGS(https://visa.educationmalaysia.gov.my), eVal,e-VISA,EMGS Hub
Visa取得にかかった日数	2ヶ月半
Visa取得にかかった費用	約2万円、現地での外国人登録費用:2万円など
Visa取得方法、提出書類等	UPMから入学許可(Offer Letter)を受けた後、学校側よりConfirmation LetterおよびOffer Letterが送付される。これらの書類を受領することで、学生ビザの申請が可能となる。 ビザ申請から承認までには、通常1ヶ月程度を要する。日本においては、まず80%の仮承認が下り、その後マレーシアに入国し、健康診断等の必要手続きを経て、最終的に100%の承認が得られるシステムである。また、入国審査の際にはEMGSとe-VISAなどを確認されるほか、学校においても健康確認チェック表やEMGS関連の書類が確認されるため、これらの書類を印刷し、学校に提出する必要がある。 しかし、私の場合、Student Visaの仮承認は取得済みであったが、パートナー大学側における入学手続きが完了していなかったため、ビザ申請を行うまでに、かなりの時間を要したのである。
留学先大学の最寄り空港までの経路	電車(KLIA Transit)約30分 RM13.10 Grab(タクシー) 約40分 RM70~90
渡航費用	韓国からマレーシアまで約5万円(直行)
ピックアップサービスの有無	無 個人的にWhatsAppを通じて家主に直接連絡を取る必要がある。

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	10月
帰国後の進路	日本で就職するつもりである

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1RM = 33円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	5万円+2万円/現地での検査費 1万5千円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	無
宿舍費(月額)	3万円
光熱費(月額)	約4千円
食費(月額)	5万円
その他	旅行代:毎月5万円
留学期間中にかかった費用の合計	約70万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

マレーシアの大学に初めて赴いた際、ビザをまだ取得していない状態で学期が始まったため、入学できるか不安でした。加えてラマダン期間中であつたため約1ヶ月間はオンライン授業のみで学校のIDも発行されず、実質的に授業に参加できませんでした。ラマダン終了前日に初めて学校に足を運びましたが、その後も多くの休校日があり、いつ登校すればよいのか明確ではありませんでした。このような状況の中、学校側の交換留学生へのサポートは十分でなく、自ら積極的に情報収集をしなければなりません。私はWhatsAppを通じて先生に何度も連絡を取り、履修登録や授業参加を自力で進めたが、これによって留学生としての自己管理能力の重要性を実感しました。

授業が始まると、多国籍の学生が集い、自由に質問を投げかける活発な授業形式に驚きました。先生も学生の発言を積極的に促しており、参加型の授業が展開されていました。この授業スタイルは、日本や韓国の形式的な講義とは大きく異なるスタイルで、新鮮な刺激を受けました。さらに授業中に教授が突然軽食を配ったり、ピザパーティーを開催したりすることもあり、食を大切にするムスリム文化の一面に触れることができました。語学面では、英語での授業に初めは大きなプレッシャーを感じていましたが、クラスメイトや先生の助けを得て次第に慣れていきました。また、1ヶ月が経過すると、聴解力や会話力などが向上し、自信を持って授業に臨めるようになりました。この経験は単なる語学力の向上にとどまらず、自分自身の異文化適応力も高まったことを実感できるものとなりました。

さらに、交換留学に行く前から卒業論文のテーマとして「多文化共生」を考えており、今回のマレーシア留学は、現地でのフィールドワークとして実際に多文化共生を体験し、研究する目的で決断したものです。現地において多様な文化や価値観に触れることで、異なる考え方を尊重する姿勢の大切さを実感したことは、学問的な意味を超えた貴重な経験となりました。総じて、マレーシア留学は語学力の向上だけでなく、多文化理解と自己成長を促す絶好の機会となりました。今後もこの経験を活かし、国際社会で貢献できる人材になるべく、引き続き努力していきたいと考えています。

今後留学する人へのアドバイス

今後、プトラマレーシア大学(UPM)への留学を検討している方にお伝えしたいのは、マレーシアのような国では、日本への留学と比べて、ビザの手続きや授業登録などが複雑で分かりにくい点が多く、自ら積極的に情報を集め、行動する姿勢が求められます。現地の大学でも、健康診断の受け方や授業の詳細について十分な説明がない場合もあるため、自分自身で確認しながら進めていく必要があります。

また、授業は基本的に英語で行われるため、留学前に英語の勉強をしっかりとっておくことをおすすめします。英語の準備ができていれば、授業内容の理解も深まり、より充実した留学生活を送ることができると思います。さらに、マレーシア国内の旅行もおすすめします。日本ではあまり知られていませんが、美しい景色や美味しい料理も多く、素敵な経験になると思います。

誰かに頼らず、ある程度のことを自分の力で対応できる人にとっては、成長の機会にもなり、有意義な経験になると思います。困った時に助け合うことは大切ですが、すべてを他人に任せてしまうのではなく、まず自分から行動し、現地の生活に慣れていく努力も欠かせません。こうした経験は人生を生きていく上で糧になると信じています。

報告書記入日

令和7年10月15日 水曜日